平成１４年度短期研修講座

「郷土素材を用いたものづくりの実践」
～郷土素材の検討・問題提起～
事例発表資料

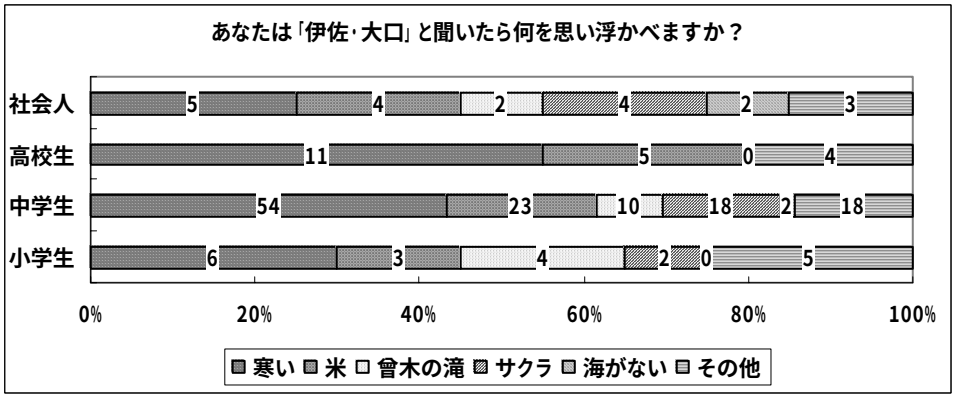
平成１４年１０月２４日（木）
大口市立大口中学校
大脇　為暢

１　技術・家庭科の目標

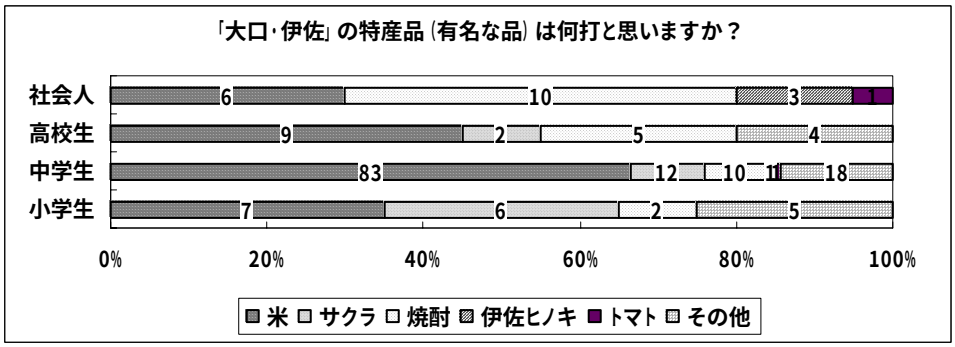
生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して，生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

２　鹿児島らしい教育⇒身近な「大口」らしい教育⇒郷土を考え，振り返らせる素材

大口（伊佐）のイメージ　　寒い、米、滝、桜、金山，海がない，県最北端



大口（伊佐）といえば　　伊佐米、桜、焼酎、伊佐檜、トマト、ねぎ、ごま、黒豚



3　考えられる実践例（案）

（1）伊佐米作りを通して

①生活と技術とのかかわりについて理解を深め

ア　伊佐米の特徴・歴史

イ　米作り（体験活動を通す）

水田の確保、技術指導、維持管理、時間の確保、地域の人材活動・総合的学習

ウ　収穫とその後の利用

（2）進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度

①米殻を使った製作、実習、授業展開

・現在では，肥料として使われることが多い

・量も多く、農家から提供を受けやすい

②わらを使った製作、実習、授業展開

・稲が，他の比べ長く，畳として加工できる

・焼き板でのスス落とし用としての活用

③伊佐ヒノキの活用

④桜の活用

・日本一の桜の大木、忠元公園（県内でも有名）

・木の質が硬く、ひずみや割れも少ない

4　郷土学習としての教材（研究実践例）

教材名	郷土素材（伊佐ヒノキ）を利用したものづくり
教材の内容	大口市は、県最北端に位置し、熊本県と宮崎県に隣接し，周囲を山に囲まれた盆地である。また，年間の最高気温３５．２度，最低気温－６．８度で寒暖の差が激しく，県内で最も冷涼な地域である。その気候の中で育ち，九州一の良質材として知られる「伊佐ヒノキ」は，大口市総面積の約６０％を森林（国市私有林を含む）の中でも約７４％を占める大口の代表的な素材である。また、エドヒガン桜（樹齢６００年）や大ケヤキ（樹齢１０００年）の巨木，忠元公園で有名なサクラやケヤキなどの広葉樹も郷土素材として歴史がある。 しかし，このような郷土素材を持ちながらも多くの生徒は，そのことについてあまり興味や関心がないようである。そこで，ものづくりを通し，成就感を味わわせこの教材に触れることは大変有意義なことだと考え，取り入れた。
指導内容	１　伊佐ヒノキ（間伐材）を素材としたものづくり　（３年選択） （１）地域人材活用・・・・・大口営林署 ①　材料の使われ方　（実技指導） ・丸太からの製材の仕方 けがきの仕方・切断の仕方・削り方・磨き方・ほぞの作り方 ②　これからの生活と技術について　（指導講話・実技） ・伊佐ヒノキを中心とする郷土素材の特徴 ・郷土素材の役割 ・木の生育及び森林保護の取り組み （２）丸太からの製材からベンチ製作　（技術とものづくりの補充・発展） ２　ヒノキとサクラ（ケヤキ）を使った授業　（１年　技術とものづくり） （１）　広葉樹と針葉樹の違い（強度・変形の試験） （２）　のこぎりびきの引き込み角度の実験 （３）　上記・試験片を使ってコースター製作　（素地みがき）
留意点	・ベンチ制作においては木工機械や刃物の使い方について十分考慮する。 ・選択については履修内容の補足・発展としてとらえる。

5　選択教科としての「技術･家庭」のねらい

（１）生徒の特性等に応じた多様な学習活動の展開
（２）生徒自ら課題を設定し，追求･解決していく学習
（３）基礎的･基本的な知識と技術の定着を図る学習
（４）地域の実態に即したり各分野の内容を統合したりするなどの学習

○　選択教科の評価の観点は、各学校がそれぞれの選択教科のねらいに応じて独自に立てる。

①　地域の特色を生かした学習
②　各内容を統合した学習
③　総合的に取り組む学習
④　課題解決を図る学習

など、幅広く展開することが臨まれる。したがって、「課題学習」「補充的な学習」「発展的な学習」とともに「その他の学習」の内容を十分検討し、生徒の興味・関心が高まり，より充実した学習が展開できるよう創意工夫のある指導計画の作成や題材の選定を行う必要がある。